

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査 速報

●実施状況

成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。当日の調査時間帯の波高は 0.3~0.1m で静穏だった。調査の結果、各地点の魚類の確認数は 0~2 個体と少なかった。9 月 12 日の青潮の発生とその後の台風 18 号の降雨による河川水(濁水)の流入の影響がうかがわれる。河川水の影響は西側に位置する St. 25 と St. 35 で強く、上層水の塩分は 13.3~18.7 であった。

調査年月日	2013 年 9 月 18 日		潮汐時刻		大潮 (満潮 : 16 時 31 分 干潮 : 10 時 05 分)			
調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	13:05~13:35		12:15~12:42		11:15~11:44		10:00~10:40	
水深(m)	7.6		14.4		15.6		24.0	
天候	快晴		快晴		晴れ		晴れ	
気温	25.7		25.5		22.4		22.4	
風向/風速(m/s)	NE/4.7		NE/3.3		NE/3.9		NE/3.2	
波浪(m)	0.3		0.3		0.1		0.1	
水色	濃(暗)灰黄緑色		中緑褐色		中灰黄色		中緑褐色	
透明度(m)	1.9		0.8		0.9		1.8	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	25.0	25.1	25.2	24.2	24.4	24.1	24.5	23.5
塩分	23.50	29.39	23.14	32.46	13.21	32.60	18.70	33.08
pH	7.9	8.1	7.9	8.0	8.0	7.9	8.0	8.0
DO(mg/L)	5.5	4.3	6.7	2.4	4.7	2.7	5.7	1.5
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
備考					河川濁水流入の影響で濁り強し		河川濁水流入の影響で濁りあり	

観測層 : 上層(0m)・下層(海底面-1m)、潮汐時刻 : 東京都港湾局のデータ

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	アカエイ(r)	ツバクロエイ(r) シログチ(r)	魚類は 確認されなかった	シログチ(r)
魚類以外	ジンドウイカ科(r)		魚類以外も 採捕されなかった	カタユウレイボヤ(r) マンハッタンボヤ(r)
備考	ホンビノスガイの貝殻多し	ホンビノスガイ、トリガイ、サルボウの殻が多かった。	ムラサキガイ等の貝殻と陸上草本の枯草、魚類の死体等	トリガイ、ホンビノスガイ、タイラギ等の貝殻多し。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

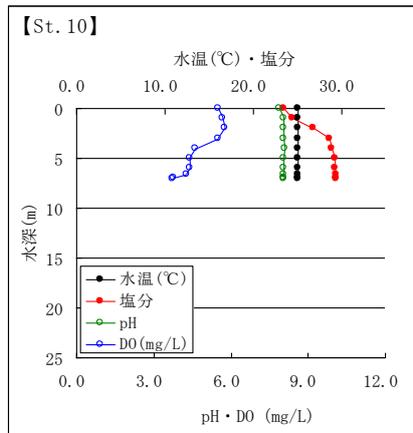
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+ :5-20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10

調査地点位置



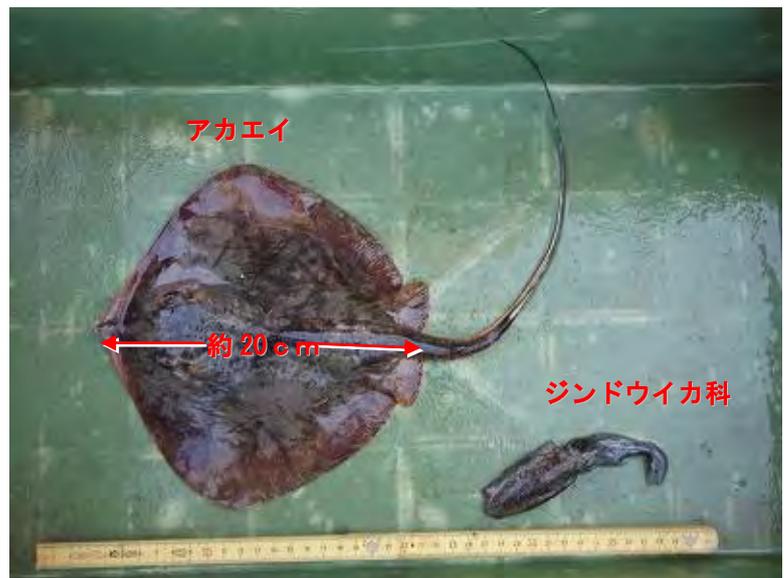
水質の状況



採取試料



確認生物



アカエイ

沿岸の砂泥底に生息するエイで、東京湾奥部に非常に多く大型に成長する。尾部に毒針を持ち、指されると非常に痛い。お台場海浜公園や葛西人工渚にても確認され、注意が必要である。

ジンドウイカ科

現在はヤリイカ科に統一されているが、ヤリイカと区別するため本名称を使用した。日本の沿岸域に広く生息する小型のイカ類で、ジンドウイカ・ケンサキイカ・ヒイカ等と呼称される、近縁の数種があり同定は難しい。

St. 22

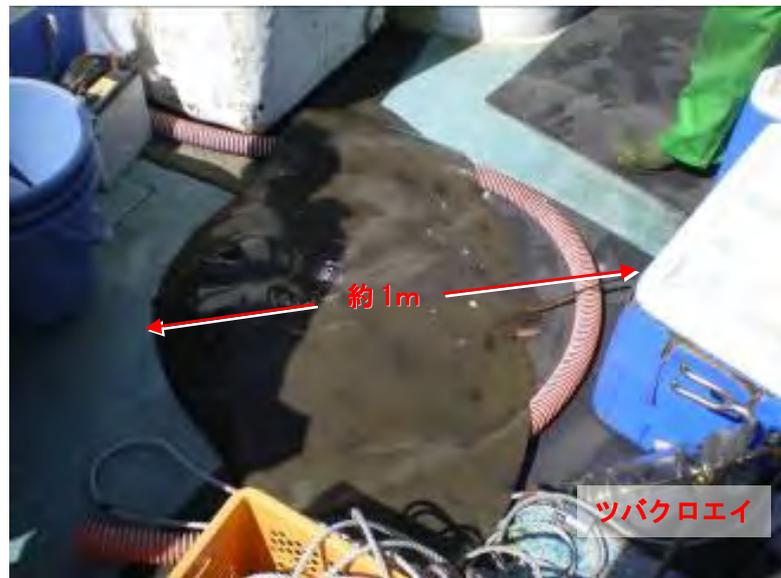
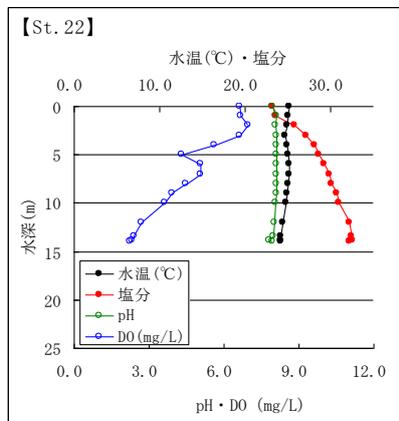
調査地点位置



採取試料および確認生物



水質の状況



ツバクロエイ

主として沿岸の砂泥底に生息するエイだが東京湾奥部には少ない。大型に成長する。今回捕獲された個体は全長約1m、重量は22kgあった。練り製品の材料になるようである。

St. 25

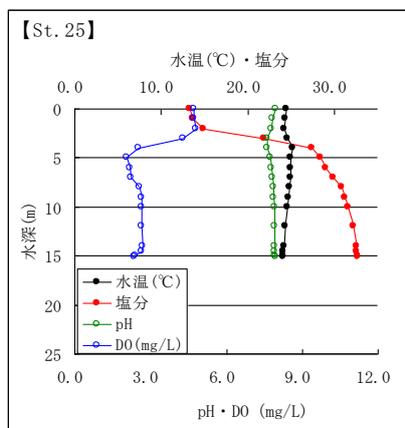
調査地点位置



調査地点の状況



水質の状況



河川水の影響が強く潮目が認められた

上層水には河川水の影響が認められた。

採取試料



魚の死体
(腐敗している)

生物は確認されなかった

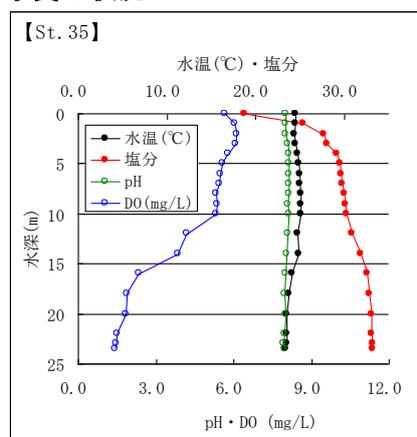
枯草

St. 35

調査地点位置



水質の状況



上層水には河川水の影響が認められた。
干潮時刻にもかかわらず、流速が1.4
ノットあり、下層の採水が困難であった。

採取試料



確認生物



シログチ

東京湾の砂泥底に多く生息し、産卵期は6から7月である。水産有用種でかまぼこ等の練製品の原料となる。夏季に稚魚が沿岸の浅場に出現する。8月の稚魚調査時に葛西人工渚で本種の稚魚が比較的多く確認された。

タイラギ

東京湾の砂泥底に生息する二枚貝で、湾奥部では夏季に貧酸素により、斃死してしまい貝殻のみ確認されるが、今回の調査では2年目と思われる長さ約15cmのものが確認された。